

ハッピーマットの応用事例紹介



Happi-Feet: Improving Hock Issues in NSG Mice

Barbara Ann Hughes, Tara McLaughlin, Stephen Cassidy, Michael De Looze, Alisdair Jeffers, Karen Dunn

ハッピーフィート (ハッピーな脚) : NSGマウスにおける踵障害の改善

英国がん研究機構 | スコットランド研究所

NSGマウスでは足根関節部 (hock joint) に腫脹や病変が生じやすく、歩行や握力にも影響が見られることがあります。原因は明確ではなく、ハンドリングや免疫複合体の沈着、細菌・真菌の関与などが考えられています。CRUKスコットランド研究所では、発生率の上昇を受けて文献調査や獣医師への相談を実施しました。その結果、ハンドリング方法や飼育環境の改善が有効とされ、ハッピーマット(Happi-mats)の導入を行いました。導入後は、症状の著しい軽減が見られ、重症例の一部では完全な消失が確認されました。

ハッピーマット導入前は、9匹で足根関節部に異常が確認され、特に雌や右脚での発生率が高い傾向にありました。重度例では早期サンプリングが必要となり、ハンドリング頻度に関係なく発症が見られました。

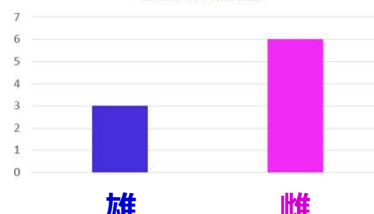


ハッピーマット
導入

足根関節部の異常

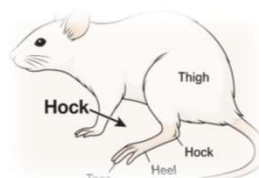
匹数

MALES VS FEMALES



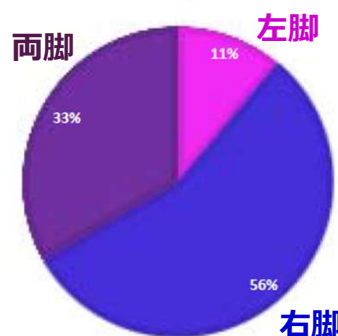
雄

雌



SITE OF DEGRADATION

Left Right Both



Week 1



Week 12

12週間にかけて足根関節部の改善

ハッピーマット導入後、雄雌を問わず全コロニーで症状が改善し、ハンドリング頻度にも依存しませんでした。一部では症状が完全に消失し、全マウスが臨床評価時点まで到達しました。

マーシャル・バイオリソース・ジャパン株式会社

TEL:029-875-5870 e-mail: infojp@marshallbio.com

「ハッピーマット、マーシャル」とご検索下さい。 <https://www.marshallbiojp.com/happi-mat>

上記ポスターをご要望の場合はご連絡下さい。(2025.08.22, The Culture of Care Day, The University of Glasgow)